

第9回(平成27年度第3回)CRCフォーラム コミュニケーションの分析と応用研究会

～モノ、システム、サービス開発のためのインタラクション研究～



日時： 2016年3月10日(木) 13時00分～19時10分
(受付 12:30 開始)

場所： 東京電機大学東京千住キャンパス 2号館 2904教室
東京千住アネックス 3階プレゼン室

主催： 東京電機大学 研究推進社会連携センター
コミュニケーションの分析と応用研究会実行委員会

プログラム(敬称略)

13:00	開会の挨拶	東京電機大学 産官学交流センター長	高橋 時市郎
13:05	趣旨説明	東京電機大学	武川 直樹 斎藤 博人

特別講演

13:20-14:20 情報学におけるエスノメソロジー・会話分析の価値：
学際的研究の歴史的展開の整理から
山口大学 秋谷 直矩

14:20-14:30 休憩

ショートトーク第1部

14:30-15:00 [S1]	インタラクションデザインをユーザとともに ～研究開発からサービス提供した具体例を通じて考える～ NTT サービスエボリューション研究所	青木 良輔
15:00-15:30 [S2]	コミュニケーション型ロボットは妖怪と同じ ～内気な人でも会話を楽しく続けられる人間よりも低い立場のロボット～ 東京電機大学	大島 直樹

15:30-15:40 休憩

ショートトーク第2部

15:40-16:10 [S3]	言語摩擦解消に向けた支援技術の開発と評価 NTT コミュニケーション科学基礎研究所	山下 直美
16:10-16:40 [S4]	話速変換技術を会話で利用するために ～遅れ時間を補完するインタフェースの設計～ 東京電機大学	斎藤 博人

千住アネックスへ移動(徒歩5分)

インタラクティブセッション(千住アネックス 3階プレゼン室)

17:00-18:00	ポスター発表 1	
18:00-19:00	ポスター発表 2	
19:00	閉会の挨拶	東京電機大学 武川 直樹

【特別講演】 13:20-14:20

情報学におけるエスノメソドロジー・会話分析の価値：
学際的研究の歴史的展開の整理から

山口大学 国際総合科学部
秋谷 直矩

社会学にルーツをもつエスノメソドロジー・会話分析が情報学の分野でも参照され、さまざまな研究が蓄積されるようになっておおよそ 30 年経った。その長い年月は、異分野間の考え方や価値観、組織運営、研究者のエトス等々の違いの可視化と調整の歴史でもあった。本講演では、以上の異分野交差の歴史について、戦後のアメリカ行動科学ムーブメントからの諸科学の展開と、そのただなかにおけるエスノメソドロジー・会話分析のかかわりの観点から整理することを試みる。また、それを踏まえて、エスノメソドロジー・会話分析がいかなるものかを再定式化したうえで、情報学におけるその有用性についてフロアとともに考えたい。

ショートトーク第1部

【ショートトーク】 14:30～

[S1] インタラクシオンデザインをユーザとともに

～研究開発からサービス提供した具体例を通じて考える～

NTT サービスエボリューション研究所 青木 良輔

インタラクシオンデザインとは、デジタル製品、環境、システム、サービスなどに対する人の振る舞いを設計することを指す。研究で得られた知見や技術に基づいて開発されたプロダクトをユーザが受け入れるかは、想定されたシーンで、そのプロダクトを利用するユーザの振る舞いに影響する。本発表では、実際に研究開発からサービス提供に至った事例（視覚障がい者向け文字入力アプリ「Move&Flick」）を通じて、インタラクシオンデザインをユーザとともに行うことの重要性、一緒にデザインするときを考慮すべきポイントについて述べる。

[S2] コミュニケーション型ロボットは妖怪と同じ

～内気な人でも会話を楽しく続けられる人間よりも低い立場のロボット～

東京電機大学 大島 直樹

ロボット開発の歴史は古く、これまで様々な形態や機能を持つロボットが提案されてきました。今後は単純な作業を代替するだけでなく、会話や身振りなどで人間のコミュニケーションに介入することを主な目的とした、コミュニケーション型ロボットに対するニーズが一層高まると考えられています。そのためには、ハードウェアの性能や機能だけでなく、我々のコミュニケーションに関する様々な文化・歴史の調査が必要となります。本発表では、人と人との社会的な相互行為の観察/分析に基づき、人間のコミュニケーションの活性化に一役買える存在になるように設計された、ロボットのふるまいや発話のデザインについて幾つかの研究事例とともに紹介します。

[S3] 言語摩擦解消に向けた支援技術の開発と評価

NTTコミュニケーション科学基礎研究所 山下 直美

国際プロジェクトが年々増加する中、言語摩擦を軽減する情報技術の需要が増加している。国際プロジェクトにおいて非母語者を支援する情報技術として、機械翻訳や音声認識による字幕表示など、複数の技術が存在する。しかし、これらを非母語者に提示するだけでは非母語者に対する効果的なサポートにはならず、むしろ非母語者の負担を増やしてしまうことがわかっている。期待している効果を引き出すためには、これらの情報技術を、誰に、どのように提示するかを工夫することが重要である。本発表では、情報技術を用いて非母語者を支援する方法として、四つのアプローチ（非母語者の語学学習を支援する方法、非母語者の語学力を仮想的にエンパワーメントする方法、母語者と非母語者の区別をなくす方法、母語者の非母語者への自発的な支援を促す方法）を紹介すると共に、研究例を幾つか紹介する。

[S4] 話速変換技術を会話で利用するために

～遅れ時間を補完するインタフェースの設計～

東京電機大学 斎藤 博人

非母語で会話をする学習者や、認知機能が衰えた高齢者は、相手の音声をゆっくりと受聴すると、知覚・認知処理の余裕ができ理解度が向上する。声質を変えずに時間伸長をする話速変換はそのための有効な技術である。しかし、話速変換を会話で利用すると、話し手側が発話を完了しても、ゆっくり音声に加工された発話を聞き手が聴取完了するまでには遅れ時間を伴う。この遅れ時間が、会話のしにくさの原因になっており、時間遅れを補完する支援技術が求められていた。本発表では、話速変換を利用した会話の分析結果から明らかになった話速変換を会話で利用するための課題を紹介し、得られた知見を基に、聞き手にゆっくり音声を提供するだけでなく、話し手にも情報提示（音声フィードバック、視覚フィードバック）をする話速変換会話のインタフェースの一設計法を紹介する。

インタラクティブセッション(ポスター) @北千住アネックス 3階

【第1部 A セッション】コアタイム 17:00～18:00

[A1] 視線の統合的利用時における相互作用の意味: 語意味推測課題を用いて

十文字女子大学 安田 哲也

湘南工科大学 湯浅将英研究室

[A2] デフォルメキャラクタでわかる飲食店の雰囲気

南波 光佑

[A3] 三体のロボットを用いた会話の雰囲気生成
—ワイワイとギスギスの場面想定実験—

渡部 晶人

東京電機大学 斎藤博人研究室, 大島直樹・武川直樹研究室

[A4] 話速変換会話における待ち時間のデザイン

熊谷 功介

[A5] 視聴覚情報が同期する話速変換映像会話システム

小山内 一樹

[A6] グループディスカッションにおける論理的／非論理的発言と第三者評価

中山 知大

[A7] だれでも良いから喋ってよ...:

話し出しやすい会話の「場」をデザインする独り言ロボット

藤森 亮

[A8] 遠隔地間コミュニケーション支援システム『ともリビ』

飯島 俊輔

【第2部 B セッション】 コアタイム 18:00~19:00

筑波大学 井上智雄研究室

- | | |
|---------------------------------------|-----------|
| [B1] オンラインコミュニティにおけるイラスト制作スキル向上の実証的研究 | 于 睿政 |
| [B2] マイクロタスク型線画イラスト生成手法によるイラストの質 | 平田 章 |
| [B3] マイクロタスク型線画イラスト生成手法によるイラストの多様性 | 何 瓣 |
| [B4] 多人数遠隔会話のための音像定位分散の効果 | 廖 薇 |
| [B5] 映像による非同期疑似共食会話における食事映像の同調の効果 | 楊 珍 |
| [B6] 食事の擬似同調による共食会話誘発システム | 中島 寿哉 |
| [B7] 会話弱者のための話速アウェアネスシステム | 徐 炯達 |
| [B8] 母語者の文字入力による非母語者との会話支援 | 塙 裕美・宋 暁宇 |

アクセス

東京千住キャンパス
(100周年記念キャンパス)

- 未来科学部 ■ 工学部 ■ 工学部第二部
 - 未来科学研究科 ■ 工学研究科
 - 先端科学技術研究科
- 〒1 東京都足立区千住旭町5番
TEL.03-5284-5151

- 【交通案内】6路線利用可能
- 北千住駅東口(電大口)から徒歩1分
 - ・JR常磐線
 - ・東京メトロ日比谷線
 - ・東京メトロ千代田線
 - ・東武スカイツリーライン
(東武伊勢崎線・東京メトロ半蔵門線乗入)
 - ・つくばエクスプレス
 - 京成関屋駅から徒歩7分
 - ・京成本線



インタラクティブ会場
17:15~19:10 【3F プレゼン室】

【受付】及び講演・ショートトーク会場
13:20~16:40

※当日は2号館受付にて入館用カードキーをお受け取り下さい
※アネックスに移動の際、返却して下さい

